

令和5年第1回糸魚川市議会定例会会議録 第5号

令和5年3月2日（木曜日）

議事日程第5号

令和5年3月2日（木曜日）

〈午前10時00分 開議〉

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

〈応招議員〉 18名

〈出席議員〉 18名

1番	利根川	正君	2番	阿部	裕和君
3番	横山	人美君	4番	新保	峰孝君
5番	松尾	徹郎君	6番	伊藤	麗君
7番	田原	洋子君	8番	渡辺	栄一君
9番	加藤	康太郎君	10番	東野	恭行君
11番	保坂	悟君	12番	田中	立一君
13番	和泉	克彦君	14番	宮島	宏君
15番	中村	実君	16番	近藤	新二君
17番	古畑	浩一君	18番	田原	実君

〈欠席議員〉 0名

〈説明のため出席した者の職氏名〉

市長	米田	徹君	副市長	井川	賢一君
総務部長	渡辺	孝志君	市民部長	小林	正広君

産 業 部 長	大 嶋 利 幸 君	総 務 課 長	渡 辺 忍 君
建 設 課 長 兼 務		財 政 課 長	山 口 和 美 君
企 画 定 住 課 長	中 村 淳 一 君	市 民 課 長	川 合 三 喜 八 君
能 生 事 務 所 長	高 野 一 夫 君	福 祉 事 務 所 長	磯 貝 恭 子 君
環 境 生 活 課 長	猪 又 悦 朗 君	商 工 観 光 課 長	大 西 学 君
健 康 増 進 課 長	池 田 隆 君	建 設 課 長 補 佐	古 平 明 君
農 林 水 産 課 長	木 島 美 和 子 君	ガ ス 水 道 局 長	樋 口 昭 人 君
都 市 政 策 課 長	五 十 嵐 博 文 君	教 育 長	靄 本 修 一 君
消 防 長	竹 田 健 一 君	教 育 委 員 会 こ ど も 課 長	嶋 田 猛 君
教 育 次 長	磯 野 豊 君	教 育 委 員 会 生 涯 学 習 課 長	
教 育 委 員 会 こ ど も 教 育 課 長	小 野 聡 君	中 央 公 民 館 長 兼 務	穂 苺 真 君
教 育 委 員 会 文 化 振 興 課 長		市 民 図 書 館 長 兼 務	
歴 史 民 俗 資 料 館 長 兼 務	山 本 喜 八 郎 君		
長 者 ケ 原 考 古 館 長 兼 務			
市 民 会 館 長 兼 務			

〈事務局出席職員〉

局 長	松 木 靖 君	次 長	松 村 伸 一 君
係 長	水 島 誠 仁 君		

〈午前10時00分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員は、ありません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議に入ります。

日程第1．会議録署名議員の指名

○議長（松尾徹郎君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、8番、渡辺栄一議員、17番、古畑浩一議員を指名いたします。

日程第2．一般質問

○議長（松尾徹郎君）

日程第2、一般質問を行います。

昨日に引き続き、通告順に発言を許します。

田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。〔18番 田原 実君登壇〕

○18番（田原 実君）

おはようございます。田原 実です。

以下、通告書に基づき、1回目の質問をいたします。

1、（仮称）駅北子育て支援複合施設基本計画（案）の行政対応と問題点について。

- (1)（仮称）駅北子育て支援複合施設基本計画（案）の詳細を市議会に事前説明せずにパブリックコメントに示した理由、本来踏まなければいけない審査の手順と今後の行政対応について伺います。
- (2) 子供の数が減る中での施設利用者の想定数とそのエビデンス（根拠）について伺います。
- (3) 施設規模と概算工事費のエビデンス（根拠）について伺います。
- (4) 費用対効果と運営期間、運営組織について伺います。
- (5) DBO方式とすることのエビデンス（根拠）と是非について伺います。
- (6) 近隣住民への説明と意見等聞き取りについて伺います。
- (7) 私から設計への提言として、以下の点、ほかについて伺います。

① 屋上利用について。

仮に1階の階高を4メートル、2階の階高を5メートルとした場合、屋上は地上から約10メートルの高さとなります。これに一部ペントハウスを設けて、一部を日当たりがよく風通しもよい屋上庭園として利用されてはいかがでしょうか。また、屋上への直通の通路を設けることで、地域住民の避難に有効なものとなりますが、いかがですか。

② 西側立面の機能とデザインについて。

建物西側立面は街並みを形成すると同時に、夏の強い日差しを受けるので、その機能性とデザイン性に特に配慮いただきたい。また、道路を挟んで設置されている芝生の公園との関連性を持たせながらも、人や車の出入りの安全性を考慮すべきと考えますが、いかがですか。

③ 屋内駐車場について。

費用対効果が薄い。雨天等の対応は車寄せを作り、利用するなど、他施設を参考に検討していただきたいですが、いかがですか。

④ 建設投資を抑えることについて。

公民連携の事業とするならば、民間で建設した場合も検討し、その後の維持管理費も考え、建設投資を抑えるべきです。建物の周辺空き地確保のために水平投影面積を減らして延べ床面積は1,650平方メートル以内とし、坪当たりの建設単価は100万円、これ

に外構工事分を入れて総工事費の上限を6億円を目標とした計画としていただきたいですが、いかがですか。

⑤ 市民が主体となる図書施設、市民ギャラリーの運営について。

民間主導行政伴走で支援し、行ってみたいくなる図書施設、市民ギャラリーとしていただきたいのですが、いかがですか。

2、大糸線の存続に不可欠な、沿線都市連携とJRの理解及び観光誘客について。

(1) 昨年春の新聞報道で、米田市長は存続には鉄道以外にないと思いを述べておられます。以来、市長は大糸線の存続を願い、行動してこられたと思います。

一方で、市民が大糸線をどうしてほしいと考えているのか、行政はどのような手法で意見を聞き、まとめ、政策として議会や市民に示すのか伺います。

(2) 糸魚川市長と大町市長の思いや覚悟が、どれほどのものか伺います。

(3) JR西日本、JR東日本と国に対し、どのように訴えかけていくのか伺います。

(4) 令和5年度は大糸線の存続の「勝負の年」となりますが、どういったスケジュール感で動いて、成果を出そうとしているか伺います。

(5) 私から観光誘客の提言として、以下の点について伺います。

① 首都圏から松本へ、白馬へ、糸魚川へ、そこからさらに北陸へという大糸線利用の観光誘客を強化するべきと思いますが、いかがですか。

② 大糸線を楽しく学ぶ「大糸線クイズイベント」や「大糸線検定」を、大糸線応援隊や市内の鉄道愛好家の英知を頂いて実施し、子供たちの乗り物への関心を高め、糸魚川へ来て、大糸線に乗っていただく観光誘客に役立てるべきと思いますが、いかがですか。

③ 大糸線沿線のすばらしいロケーションと乗り心地を生かして、「ブック&バルトレイン」を運行する。ゴトン、ゴトンという音を聞きながら、旅の中でゆっくり本を読んだり、沿線の素材で作られたつまみと美味しい地酒を楽しむプランはいかがですか。

④ 大町市議会の高橋 正義員のアイデアとして、大町市のダムの底の砂利を日本海へ運んで渚をつくることに大糸線を使ってはいかがですか。

3、糸魚川独自の文化的価値の高い地域資源、ヒスイ、谷村美術館などを生かした情報発信と誘客について。

(1) 糸魚川のヒスイが新潟県の石として指定されましたが、糸魚川市がジオパークや「石のまち」であるという後づけのことだけではヒスイの持つ深い意味が分からない、伝わらないと私は考えています。ヒスイを今日的な価値や意味があるものとして、多くの市民がヒスイに関わり、関心を持ち、活用することで、初めて糸魚川独自の文化的価値の高い地域資源として理解され、情報発信と誘客につながると思います。市の取組を伺います。

(2) 今年は谷村美術館開館40周年となりますが、建設までの経緯や建築家村野藤吾が設計に込めた思いを理解する機会を持つべきと考えます。これまでも、著名な建築史家の先生や村野建築を研究する専門家の方々、建築に興味や知識を持つ多くの方が、谷村美術館へ聖地巡礼のようにして来ていただいています。情報発信と誘客を工夫すればさらに来場者を増やすことが可能です。市の取組を伺います。

(3) ヒスイと谷村美術館、そして今年生誕140年となる相馬御風がつながっていることも糸

魚川独自の文化として捉えて、ストーリー性を持たせれば情報発信と誘客につながるものと思います。ただそれには、これまでの取組を見直し、ブラッシュアップする必要があります。そこで、糸魚川の地域資源活用のための客観的な評価とツアー商品企画まで、コンサルタントを入れて必ず効果を出すプロジェクトの検討をしてはいかがでしょうか。市の取組を伺います。以上、1回目の質問です。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

田原 実議員の質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、今回、補助事業等の手続の関係によりパブリックコメントで先に示す形となり、先般の全員協議会及び総務文教常任委員会において、おわびを申し上げましたが、今後は議会軽視とならないように努めてまいります。

2点目につきましては、類似施設の利用者数を参考に、試算しております。

3点目につきましては、利用者数及び法律上の制限を考慮した上で施設規模を定めており、概算事業費は、類似施設の建設費を基に試算したものであります。

4点目につきましては、少子化に対応した未来を担う子供たちの成長と子育て世代が安心して出産・育児ができる環境づくりが必要であり、運営方法につきましては、今後、詳細を検討してまいります。

5点目につきましては、公民連携の手法として、施設運営者の意見を設計段階から反映できる手法の一つとしてDBO方式を検討しているものであります。

6点目につきましては、地域住民や関係者等による懇談会などを通じて可能な提案については計画に反映いたしております。

7点目につきましては、設計と運営に関する提言として受け止めさせていただきます。

2番目の1点目につきましては、令和元年と令和3年に、沿線の駅ごとに住民の皆さんとの懇談会を開催しており、今後も必要に応じて協議の場を設け、市民のご意見を利用促進等につなげてまいります。

2点目につきましては、大糸線が存続するために、沿線自治体が一体となって利用促進に努めていくことについて、各自自治体と認識を共有いたしております。

3点目につきましては、JRに対しまして、輸送強化、利便性の向上に加え、利用促進への連携を要望しており、国に対しては、鉄道ネットワークを維持する責務を果たすよう要望いたしているところであります。

4点目につきましては、北陸新幹線の敦賀延伸やその先を見据え、沿線が一体となって利用促進に取り組むことで、鉄道の存続を図ってまいります。

5点目につきましては、ご提言として受け止めさせていただきます。

3番目の1点目につきましては、県の石指定を機に、より一層市民から関心を持っていただけるよう、改めてヒスイの希少性や歴史文化的な価値、大地との関わりなど、多面的な視点による周知

促進に努めてまいります。

2点目につきましては、開館40周年記念イベントとして、谷村美術館の建築が持つ魅力に触れ、理解を深めていただけるような企画展の開催など、建築関係の学生や専門家はもとより、多くの方から訪れていただけるよう情報発信と誘客の強化に努めてまいります。

3点目につきましては、それぞれの施設において相互に連携を図った誘客を行うとともに、ヒスイと谷村美術館、相馬御風のつながりを生かしたストーリー性を持たせ、ツアー商品やモデルコースの造成を考えております。あわせて、必要に応じ、コンサルタントの活用も検討してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

では、質問の2、大糸線の存続の再質問から先をお願いします。

大糸線の観光的な可能性を具体化すること、経営が厳しくとも地方路線を存続させ、沿線集落消滅の予防を考えること。この2つをJR西日本、JR東日本に求め、一緒に取り組んでもらう必要があります。それを、大糸線沿線の市長、特に大町市の牛越市長とはしっかりスクラムを組んで進めていかなければ、大糸線は守れない、そう考えます。再度、市長のお考えを伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

大町の牛越市長は、松本―糸魚川間の大糸線利用促進輸送強化期成同盟会の会長をお務めいただいております。やはり大町の牛越会長を筆頭に、松本―糸魚川間の各自治体の連携、また活動が大切かと思っております。特にJR西日本に対しましては、小谷、糸魚川の村長と私、大町の市長としっかりと連携の中で対応していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

大糸線を守れるか否かは、トップの考えと行動次第です。令和5年は、まさに勝負の年です。

第3期の期成同盟振興部会で、JR西日本が様々な役割分担や責任分担について具体的な議論につなげていければと考えていると発言していますが、これをどう捉えていますか。

JR西日本は、活性化策は否定しないとしながらも、次のステップとなる上下分離、廃止等へ議論を移すよう振興部会に求めている。なのに糸魚川市は、いつまでイベントの企画をしているんですかと心配する声もあります。

観光イベントはやるべきですし、沿線の観光情報発信も大事。

ただ、ＪＲ西日本の顔色をうかがいながらのイベントで、時間だけが経過し、緩やかに廃線へ向かうことを私も心配します。

そこで、次回の大糸線応援隊ファンミーティングでは、会員からの意見等を集約した資料をまとめ、現実的な応援をいただくよう方向性を定めて、実際に大糸線に乗りにくる人を増やしたり、資金調達を行う知恵を応援隊会員に求めているかがどうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

おはようございます。

お答えをいたします。

まず、大糸線の同盟会の振興部会は、大糸線の活性化、それに持続可能な路線の方策を検討するために設置をされた部会でございます。幅広い議論をするという立てつけで構成をされた部会でございます。

振興部会のその設置の目的からしまして、ＪＲが言う、今、議員おっしゃったような議論の必要性というのは、私どもも理解しなければいけないと思っています。

ただ、まずは活性化のほうに注力し、その効果を見極めた上でＪＲの言う議論に入るべきだというふうに考えておまして、これは、長野、新潟両県、沿線自治体、一貫した考え方でございます。

イベントばかりじゃ駄目、いつまでもというご質問でございますが、そこはご指摘のとおりです。会議を何回やってもお客様というのは増えません。振興部会では、市長の答弁でもございますが、沿線一体となって活性化に取り組んで、まずはまいります。同盟会振興部会に任せるというつもりではなくて、糸魚川でできることは行ってまいりますし、これまでも「雪月花」の乗り入れですとか、サイクルトレイン等には、取り組んでまいりました。

応援隊の皆様のご意見、今2,700名を超える応援隊の皆様から、いろんな方面で応援をいただいています。いろいろな利用促進のご提案、あとは実際に定期券を買って、自分のお時間のあるときに乗り込んで、乗降の調査をして、そのデータを糸魚川市に提供いただけるという、そういう面で応援していただいている方もいまして、そこは大変私どもも助かっています。応援隊の皆様は、今度は現実的なということですので、例えば行政側のほう沿線としては、応援隊の皆様にごこういうことをやってほしいんですが、いかがでしょうかというような投げかけといたしますか、お願いもしながら、やはりそういう活動には期限ですとか目標値みたいなものを持って、計画的に定めていく必要があるんじゃないかというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

丁寧なご答弁いただいたと思います。

それで、大糸線応援隊の皆さんの期待に応えるために、次回のファンミーティングで糸魚川市長

の大糸線全線開通70周年まで存続の宣言を出すくらいの勢いが欲しいです。それには、沿線都市の市長やJRへの根回しも必要ですが、これをやるか、やらないか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えをいたします。

JR西日本だけではなくてJR東日本も収支の状況というのを発表いたしまして、最初は、今JR西日本、南小谷―糸魚川間だけのお話、そこなんです、長野県の皆さんも、この振興部会の必要性についてご理解をいただいています。

ただ、そういうJR東日本の収支が発表されてからは、実際に、そのJR東日本の区間の中にも、そういうリスクのある部分があるということが、もう数値で示されておりますので、今の70周年まで存続宣言というような、どういう形式とかそういうところはちょっと今私の立場でははっきり申せませんが、そういう契機でやっぱ大糸線全体というのを何とか守っていくぞというような機運の盛り上げというのは、必要であるというふうに私は考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

糸魚川市が集めた応援隊の皆さんの気持ちが一つになるようにシンボリックなスローガンが欲しいなと思ひましてね、今の提案をさせていただきました。ぜひともご検討ください。

先日の和泉議員の質問にありました2年後の新幹線糸魚川駅開業10周年の節目に、大糸線廃線の手続が済むことだけは阻止したい。この廃線阻止の糸魚川市長の宣言は出せますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり活動は、個々にやっても駄目なわけですので、その沿線自治体、また沿線住民、そしてまた、大糸線を愛する皆様方と一体となって取り組めるような方向で取り組まなくちゃいけないだろうと思っております。それについては検討しなくちゃいけないと思ひますし、今そういう機運が高まっておるわけでありまして。ぜひとも、この大糸線の廃線に対しては、阻止していきたいという気持ちで対応していきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

そこで、私からの提案ですが、政治的な動きを見える形にしてマスコミに訴えるためにも、秋までには沿線都市の市長がそろっての大糸線サミットを開いていただきたい。そのことは、J R西日本、J R東日本を刺激するでしょう。

しかし、皆さんは、地方分権を担うために選ばれた政治家、権力者です。J R西日本、J R東日本は、確かに大きな組織ですが、今日あるのは、鉄道を長く乗り継いで、国鉄時代の赤字を補填して守ってきた沿線の住民のおかげなんです。その原点を忘れずに、未来ある大糸線を今切らないのは鉄道事業者の責任、切らせないのは沿線自治体のトップの責任です。その点、市長のお考えを確認させていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私は、そのつもりで、この大糸線に対して、今運動させていただいてるわけでありまして。決しておろそかにしている部分ではないと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

では、質問の1、駅北子育て支援複合施設基本計画（案）の問題点について、再質問させていただきます。

この計画案が、パブリックコメントで市民に示されたのが1月25日です。それよりも後れて2月8日に、議会全員協議会で議員全員に示され、引き続き総務文教常任委員会の所管事項調査で委員から意見を聞くという手順を踏んで、議会軽視として問題となりましたが、担当課長はどう思われますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えをいたします。

議員の皆様は2月8日に説明をする前に、先にパブリックコメントに付したこと、議員の皆様から大変お叱りを受けました。ルールにそういうふうを書いてないからというような短絡的なことではなくて、そういう紳士協定もある。あと、パブリックコメントを出すことによって、議員の皆様のところへ市民からの問合せ・ご意見などが寄せられるという、それに対しての、議員の皆様から逆にお答えいただく機会を損ねたといえますか、そういうところでも数多くの問題点があったと思いますので、今後は、このことは十分注意して、心に刻んで取り組んでまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

所管の区分があり、建設産業常任委員会、以下、建産と略します。建産では、基本計画案を見ることなく、合意形成には至りませんでした。その後、時間が経過し、全員協議会で初めて計画案への質疑ができました。この行政対応も大きな問題ですが、計画案の問題点について、以下、再質問します。

何が問題か。まず、子育て施設部分の利用者が見えないし、費用対効果も分からない。整備費約15億円、運営費年間5,000万円の根拠も費用対効果も分からない。DBO方式か指定管理かで、外注することを先に決める根拠が分からない。まずは、この3つだと私は考えます。

この分からないことだらけの、言わば15億円の子育てブラックボックスを税金で建てることや、建てた後の運営管理費や修繕工事費を税金から支出し、未来の子供たちに負担させるわけにはいかない。駅北子育て支援複合施設基本計画の肝となる健全な経営計画を議会に出して、審査を受けるべきだという結論を先に申し上げておきます。

私は、2月8日の総務文教常任委員会、以下、総文と略しますが、傍聴しました。その中で、古畑浩一委員の質問、建設工事概算費の根拠についての市長の答弁は、不十分なものと私は思いました。

そこで、施設規模と概算工事費の根拠の詳細を、担当課よりお答えください。

また、施設完成の年の子育ての部分の年間利用者数を最低何名と見込んでいるか、また、完成から20年先の子育ての部分の年間利用者は最低何名と見込んでいるか、数値で、担当課よりお答えいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えをいたします。

施設規模、あと事業費の概算につきましては、まず、皆様からいただいた機能を定め、その中に法律上の規定で必要な面積、あとご利用者の想定というものを考慮しまして決めたものでございます。そういう考慮したものに敷地面積1,500平米に対しまして、今度は周辺住宅の影響、特に北側に面される方に対しての高さ的なことも考えまして、2階建てで床面積2,000平米程度が必要ということの基本計画案のほうにお示しをしたものでございます。

今度コストのほうですが、市長答弁のとおり、今の段階では、積み上げて積算をしたものではなくて類似の公共施設の建設費から面積当たりの単価を割り返し、そこに床面積2,000平米を乗じた金額でございまして、詳細設計の前の段階での目いっぱい精度であるというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

おはようございます。

開設時の想定人数ということで、まず、お答えさせていただきたいと思います。

それぞれ施設の区分ごとということでございますが、主立ったものについてご説明いたします。

子育て支援センター並びに屋内遊戯施設、こちらにつきましては、相互利用ということが考えられますが、それぞれ相互利用する中で、年間1万人ということで、現在、類似施設のほうから計算をしまして、見込んでいるところでございます。

また、この先の想定見込み人数ということでありますが、出生数の減少する中で、年間の利用者数というのも減少する見込みではありますけれども、利用者が減る中でも、それぞれの家庭が持つ課題等を解決するべく施設となるように努めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

20年先、大事なんです。そこをシミュレーションしたかということです。それ決めてないと、この建物を造っちゃいけませんよ。

まず利用者、それで、それに合わせた面積、もう一回お答えください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

20年先ということで、そこまでの出生者数、また人口も減少する中ということは、私どもも想定しております。具体的な利用者数までは現在見込んでおりませんが、そういった部分も含めまして、利用規模、また20年、また30年続ける場合の運営費等も見据えた中で、今後、計画のほうにしっかりと反映してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

今後じゃないですよ、計画案なんだから、今皆さんに示して、検討していただかないと、皆さんが検討して終わったじゃないですよ。

不十分だと思いますけども、次の質問にいきます。

議会中継で、市民にご覧いただいています。市が進めたいDBO方式というのはどういうものか。設計、工事、運営と3つに分ける方法との違い、直営あるいは委託で運営するものとの違いを説明

願います。

子育て支援施設の運営は、工場やごみ焼却施設とは違います。総文の委員会でも、DBO方式はやめてほしいという意見が複数の委員から出ました。なぜDBO方式にするのか、説明をお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えをいたします。

DBO方式にこだわるという部分ですが、その手前は、まずは市民の皆様、ご利用者が、行ってみたいと思えるような施設であるという、そういうことが必要であるというのが第一でございます。そのために、民間の事業者の創意工夫ですとかノウハウを取り入れた運営管理が好ましいのではないかとということで、その手法の一つにDBOですとか指定管理というものを、私どもは基本計画に上げさせていただきました。

直営ということも考えられます。この機能の中で、例えば子育ての相談のようなところは、そういう民間のところに本当に任せていいものなんだろうかとこのところは、私もそこはちょっと問題があると思いますし、ほかのオガールのような例も見ますと、民間でやる部分と行政でやる部分とこのをしっかりと区別して押さえて、それを一つに取りまとめるとこののも特徴でございます。

長くなりましたが、このDBO方式には、決して固執してものではなくて、今後、その運営の在り方について、本当にメリットですとかデメリットみたいのをちゃんと整理しまして、皆様にお示ししながら運営方針、方向性というのを定めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

極めて曖昧なんですね。

さて、仮にDBO方式で押し切った場合、20年先まで運営を委託契約するのか、しないのかを副市長に、また、年間5,000万円かけて子育て補助員を配置しなければいけない根拠をこども課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

おはようございます。

お答えいたします。

今ほど都市政策課長が申し上げましたとおり、DBO方式は公民連携の一つの手法として考えているものでございます。

ただ、その手法だけに決してこだわるものではございません。指定管理、あるいは直営という方

法も、今あるというふうに申し上げました。そちらについては、しっかりまた皆さんと議論する中で決めていきたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

運営費と、保育補助員という部分につきまして、こども課のほうよりお答えをいたします。

これまでも出生数が減る中、周囲に子供や親同士が集まる場がなく、孤立感や負担感が出てきている。またそちらを少しでも解消できるように、子育て中の親子の居場所であるとか相談の場所が必要であるということも、ご説明したところでございます。

また、そのほか特別な支援が必要な子の早期発見というの、そういった屋内遊戯施設を、また子育て支援センターを併設する中で、早期に発見できるといった役割を果たすというふうに考えております。

これまで、平成29年、また今年度を実施いたしました子ども・子育て支援のアンケートの自由意見欄では、いずれの年度でも屋内遊戯施設の設置という意見が最も多かった状況であります。今、様々な話し合いの中で、子育て世代がどのように思っているか、私自身考えることがございます。アンケートの結果からも、子育て世代が、私たちの願いをかなえてほしいという声が聞こえてくるようでもあります。少子化の今だからこそ必要なものであるこの施設の整備計画を進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

年間5,000万掛ける20年で10億円、大変な額の投資となります。受託業者は、10億円を保証されてうれしいでしょう。よい人材確保には、投資が必要と総文で意見が出ていましたが、要は、DBO方式で子育てビジネス事業者への長期の支払いが確定されるということです。市長は、受託業者から感謝されるでしょうし、認めた議員も感謝されるでしょう。当初からそういう話になっていましたか。

私が心配するのは、受託した事業者の責任者に、市役所の退職者が繰り返す体制を議会も容認する形をつくってしまうことです。まさかそういうことにはならないですね、副市長に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

今DBO方式で進むという前提でご質問いただいたというふうに思っていますが、先ほど申し上げましたとおり、そこは確定したものではありませんので、今の仮定のご質問にはちょっとお答

えできません。

先ほどの追加になりますけども、直営で、例えば子ども課の子ども支援室が、そちらへ行って運営することもあり得るというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

計画に書かれていることが確定されていないんですか。パブリックコメントに示したり、議会に示したのはどうしてですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

公民連携の手法として、DBO方式ですとか指定管理も示してあります。

ただそれは、例えば受託できる人がいない。そういった場合は、やはり直営でやる場合も考えられますので、やっぱり皆さんからいろんなご指摘を受けている中で、直営方式のほうがいいんだということであれば、そのように計画変更もすることは可能だというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

計画案に沿って、質疑を続けます。以下、担当課がどうしてDBO方式を進めたかったか、理由を副市長に伺います。

事業者への聞き取りをした昨年の早い段階から、課長はDBO方式で行くんだと建産で説明していたのはなぜですか。

DBO方式は、長期包括契約なので、契約に関しては建産では調査できないにもかかわらず、計画案に盛り込もうとしていました。なぜですか。

9月末の段階では、何をどのようにつくって運営していくのか全く分からないと言ってよい状況で、施設の機能が決まらなければ、運営方式は決められませんとも答弁していた。

その一方で、DBOを進めたい。DBOを目指す。DBOは変わらないと言っていた。スケジュールを定めたいとも言っていた。おかしい話ですよ。なぜそんなことを言っていたんですか、副市長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

DBO方式を進めたいという気持ちは、担当課のほうで当然あったというふうに思っています。

ただ、先ほど市長答弁で申し上げましたとおり、公民連携の手法として、施設運営者の意見を設計段階から反映できる手法の一つとして、DBO方式を検討しているものだというふうに、答弁申し上げました。ここについては、先般の全員協議会、あるいは総務文教常任委員会の意見を踏まえて、少しトーンを修正したものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

もう何のためにこの計画案をつくってパブリックコメントに出したんですか。全然信用ないじゃないですか。

仮に、仮にです。国からの建設資金調達のためにDBO方式とスケジュールだけ先に決めようとしたならば、これは議会軽視です。建産もなめられたものです。

このなめられたというのは、正直、品のよい表現ではありませんが、建産で計画案が示されないのに、パブリックコメントに出された経緯を聞いた市議会のOBがそう言っていたと聞いたので、あえて申し上げたのですが、市民に議会がそう見られていることをどう思われますか、副市長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

議会制民主主義ということで、市民の皆さんの代表が、議員だというふうに思っています。そのように見られたのであれば、今回、議会軽視というふうに取りられたんだろうというふうに思っています。そのことについては、深くおわびを申し上げたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

補助金の申請を急ぐあまりに、計画づくりや合意形成がずさんになっていませんか。また問題を起こすのではないですか。

キターレ建設では、着工直前、突然に2億8,000万円から1億円も減らす設計変更しました。また同じようなことを起こすのではないですか。

一番嫌なことは、DBO方式のメリットを盾に、20年にわたる運営事業委託を議会チェックを受けずに定めて、15億円のブラックボックスを作り、あらかじめ内定していた事業者にも業務委託し、癒着による再就職先を行政自らがつくっていくことです。

私は、DBO方式の採用には苦い経験があり、須沢のごみ焼却施設のDBO方式の契約において、当時の副市長は、所管する委員会での調査が続くことを嫌い、所管を変えろと言い出して委員会を混乱させ、一方で、DBO方式を進めることだけ議決させました。また同じようなことを起こさないか危惧します。

ところで、この元副市長は、市内の某施設に再就職していませんか、副市長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

当時の副市長のことを今おっしゃってると思いますが、市内の企業に勤めているのは事実でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

事業手法の比較表に、直営が検討されていませんが、なぜですか。そもそもなぜ外注するのでしょうか。

市は子育てに力を入れています。イコール外注なんですか。どうして直営じゃ駄目なんですか。

私は、これまでの一般質問で、他市の直営の事例を紹介し、調査検討し、計画にフィードバックすると答弁をいただきましたが、どうなりましたか。

直営で2年状況を見て、しかるべきところに委託すべきと私は考えます。

総文では、横山人美委員より、直営でとの意見が出されました。五十嵐課長が説明していた、役所が考える運営は面白くもないようなつくりになるので、民間のノウハウを取り入れるとかでDBOであれ、指定管理であれ、外注しか考えないのはおかしいです。その理由をこども課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

これまで議会の委員会の中で、運営方式については、様々ご意見いただいております。これまで民間の手法を生かした方法でということ、ノウハウ、また経験等を生かした方法を進めていきたいということをお話をしておりますし、また直営でもということ、それぞれいい部分、また、至らない部分というのはあろうかと思っておりますので、そういった部分につきましては、改めて整理をしまして、運営方法につきましては、検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えをいたします。

過去に私の答弁で、役所の考えることが面白くないと言ったことが、その本意がお伝えできてないとしたら、おわびをいたします。子供たちが、多くの皆様が行ってみたい、寄ってみたいと

思えるような施設にするために公民連携の中の民間のセンスを取り入れたいというふうに考えたものです。

それともう一点、何をどのように造って運営していくのか全く分からないという状況でDBOを打ち出したというところに関しましては、直営ですとか指定管理と異なりまして、DBOの「D」のデザインというのは計画の部分から、将来的な部分、運営のところ、「O」の部分に関わっていただくということのほうが、そういうセンスを生かした取組ができるのではないかというふうに考えたことで、直営ですとか指定管理とDBOですと、スケジュール感という仕事の進める順番というのがだいぶ異なってまいります。何をどのようにつくっていったいいのかが分からない状況で、逆に、それを示したのは、こういうことも糸魚川市は考えているということを経験で示すことのほうが、公正フェアであるというふうに考えたこととさせていただきます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

計画に書いてあるし、説明してきたんですよ。

DBOができないときは、指定管理で委託するというので、とにかく直営ではやりたくない。その理由は、実は運営の委託先を決めてあるからではないのか。

問題とするDBO方式の提示すら実はトリックで、本命は指定管理のほうじゃないか。市があらかじめ決めてある指定管理業者がいるんじゃないか。

いろいろ考えると、そんな疑念を持ってしまいます。仮定には答えられないと、聞いたようなことをさっきお答えになってましたけども、ここは疑惑だらけなんです。お答えください、副市長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

指定管理者というご質問であります。決まった団体等はございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

それでは、通告書の（7）③屋内駐車場の費用対効果について、都市政策課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

施設の駐車場につきましては、実際に子育て世代の皆様から、最初は海望公園のところにある駐車場をご利用くださいと最小限にしておりましたが、やはり子供を連れて荷物を持って実際に通う

お母さんの気持ちを考えてもらいたいというようなことを伺いまして、駐車場を拡大するといった経緯がございます。その中で、それにしても限られた場所でございますので、そこに最大限の駐車区画を配置をするか車寄せ的に使って、例えばお母様がお子さん連れてきたときに、職員のほうがお荷物とお子様を1回面倒を見て、お母さんが車置いてきてから寄るといような、そういうロータリー的な使い方というところもあるのではないかとということなんですが、これは今後、本当に施設の計画を詰めていく中で、どっちのほうが好きなのかということ、ぜひそういう関係世代の方にもご意見を寄せていただきたいところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

駐車場の工事費をざっと考えると、延べ面積2,000平方メートルで、うち屋内駐車場300平方メートルで15%、建物本体工事費を10億円として面積比率を掛けると1億5,000万円。屋内駐車場は、仕上げや設備工事等が少ないので60%を掛けるとすれば9,000万円。それを10台で割れば、1台当たり900万円です。1台当たり900万円で10台分、これが計画の職員の数と同じです。最初は、親子のためとかなんとか理由をつけて造り、実際は施設の長と職員が使うんじゃないか、そんな疑念を持ってしまうますが、違いますか。そんなことにはならないと約束できますか。こども課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

今回の施設の中に設置される1階部分の駐車場であります。こちらにつきましては施設を利用される方が利用する駐車場となっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

通告書（7）④建設投資を抑えることについて。

面積を1,650平方メートル以内、坪当たりの建設単価を100万円、外構工事分を入れて総工事費の上限を6億円を目標とする、私の提案の説明をさせていただきます。メモしながら聞いていただければ幸いです。

まず、市の計画面積2,000平方メートルから屋内駐車場300平方メートルを減らします。遊戯場や子育て支援部分も全体で150平方メートルを減らします。理由は、費用対効果を考えてです。

逆に、雨天時の車寄せと地域住民が使うピロティ50平方メートル、ミニコンビニのレンタルス

ペース50平方メートルを増やしますと、トータルで1,650平方メートルです。

建設単価は、計画案が建物のみ10億円で、延べ床面積2,000平方メートルなので、坪当たり165万円です。公共工事は、なぜか経費がたかさんかかって、民間の工事の1.5倍が普通とされているので、それで割り返すと、民間工事とすれば、坪当たり110万円です。単価は、キターレを参考にしたとのことですが、キターレは平家建てで、子育て支援複合施設は2階建てで規模も大きく、スケールメリットを考慮し、単価を10%下げました。

以上、これが民間発注、民間受注であった場合の施設建物本体工事費と外構工事費の合計を6億円としたエビデンスです。

この提案は、これまでの私の質問、あるいは委員会での意見で申し上げ、会議録にもありますが、その後ご検討いただけましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

面積を狭めてコストを下げて、あと全体を6億というご提言は、今回も以前にもお聞きをしております。ご質問の中の民間の部分という部分なんですけど、公共工事は一概に高いというふうに言われておりますけど、その単純な比較というのは難しいものではないかと思っております。というのは、民間の仕事というのは、基本的にはお施主さん、事業所者と請負者、建設業者の関係で決まるものですし、何らかのそういう比較というのはできていくかと思えます。

ただ、いずれにしても今回の基本計画は、今、市役所の考えている目いっぱいのことを、目いっぱいというのは、これくらいのことを考えているというのをなるべくぼやけることなく明確に示すことで、皆様からのご批判・ご意見いただくためにああいうふうに示したものでございます。

今回そういう機能について、基本計画にまとめさせていただきました。当然費用、建築だけでも12億円というような、びっくりするような数字なんですけど、当然コストの縮減というのは意識をしておりますが、当然今度、ご利用される方の満足度とかそういうところもトータルして今後詰めていくべき話ではないかというふうに私は考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

先進地の民間の工事を参考にして、提案をさせていただきましたが、問いたいのは、DBOだ、民間活用だと外部委託業者の話を聞いて、利益率の高い設計施工で工事を発注しようとしていることです。本来の民間活用の手法をすり替え、子育て支援を名目に何をしようとしているのか、そんな疑念を持ってしまいますが、違いますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えをいたします。

先ほどの答弁のとおりでございます。ご利用いただく方にとってよい施設であるために、その手法として、公民連携の考え方を取り入れて、ご利用いただく方に、よい、行ってみたい施設となるように考えているその手法の一つが、DBO方式というものを市役所のほうは目指していますということをお伝えしているもので、よい施設、行ってみたい施設になる手法が、DBOじゃなくても全然私は構わないと思っていますし、そういう一定程度の長期間の利益を約束するとか、そういうような発想というのは全くございませんので、そこはぜひご理解いただきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

他市の事例を見て、申し上げてるんですね。当たり前ですよ、いいものを造るのは。あくまで米田市長が発注者で、国からの補助金をがっばりもらう筋書きだけをお考えならば、私の提案は難しいです。

しかし、民間が発注者なら、紫波町オガールの事例を参考に、私の提案に近い計画の実現は可能だと思います。たとえ市長が、私からの提案を受け入れないにせよ、ちゃんと検討してください。市民に必要とされる施設を造るために、無駄なものを造らないために、市民の負託を受けた議員として、私もそれなりに考え、提案してるんです。私は、それが行政と議会の在り方だと思っています。

私は、これまで被災者住民、地元区民の皆さんのご意見を聞き、本町通りや広域商店街の皆さんと意見交換し、市民説明会にも出ました。それで申し上げるのですが、当初の復興まちづくり計画が、まちづくり戦略の検討の中で、子育て云々にすり替わった経緯や食品などお買物できる場所やミニコンビニをと要望しても、どこかの業者がそれは難しいと言った、コンビニを造る気はないと市長が言ったので、そのままにしている。そのことを理解していただかないと、この計画は、その先の建設も受け入れてはいただけないのではないのでしょうか。まさに敵地に城を築くようなものではないですか。それで、近隣住民の皆さんが、施設へ来て、子育てに参加し、サポートしてくれるとお考えですか、市長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私は、施設ありきの話をしておるものではございません。ご承知のとおり、今建設をしようとしてるのは、平成28年12月22日に発生した駅北大火の復興まちづくり計画の中で位置づけておる部分でございまして、それにつきましては、いろんな方々と今までご意見をいただいたり協議をさせていただきました。そういう中で、今いろんなものが完成し、そして現在の今ご論議いただい

てる施設になったわけでありまして、私は、今、議員ご指摘のように、1つのことだけ捉えて、その部分でもしそういうお考えになったら、そういう方向に行くのかもしれませんが。

しかし、全体的にトータルで考えて、公共事業というのはやはり民間とちょっと違うのは、我々は定められたルールで、そして定められた必要経費をやっぱり計上していかななくちゃいけない。今、議員ご指摘のように、もう業者が決まってるんじゃないかということをご指摘いただきますが、そんなことは決してございません。情報収集する中では、いろんな業者から情報を聞くことはあるかと思いますが、入札のときには、そういうことをしっかりとないようしていきたいと思っておりますし、そして、やはり公平公正な事業に取り組んでいきたいと思っております。今進めておる意見、また、今まで積み重ねた意見を合わせて、ぜひとも事業化をしていきたいと思ってる次第でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

計画としては、申し訳ない生意気ですけど、まだまだ未熟な計画であり、疑問の多い計画だと言わざるを得ません。行政は行政で、議会は議会で、市民の信頼を裏切らないよう計画に取り組んで、町の復興を進めていかなければなりません。このプロジェクトは、米田市政20年の成果となります。そのようなことで、市長が気づかずにいるかもしれない計画の問題と、私が懸念することを遠慮なく指摘させていただきました。

それで、結論を申し上げますと、今の計画案は一部見直しではなく、市長の英断で一度取り下げていただき、経営計画を盛り込んだ計画の早期の再提出を求めたいと思います。市長いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今ほどもお答えさせていただきましたが、積み重ねておるこの議論の上に成り立っておる部分がございます。まだまだやはり万全でないというご指摘もいただきました。いろんな意見をお聞きする中で、この計画は進めていきたいと思っておりますので、皆様方のご協力をお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

これ以上は、平行線だと思います。

これで、私の一般質問を終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、田原 実議員の質問が終わりました。

ここで、暫時休憩をいたします。再開を15分といたします。

〈午前 11 時 05 分 休憩〉

〈午前 11 時 15 分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、古畑浩一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。〔17番 古畑浩一君登壇〕

○17番（古畑浩一君）

お疲れさまでございます。4日に続く、4日間にわたる一般質問、17名の議員が、この一般質問の発言台に立ちました。私は17番目ということで、一番最後でございますが、皆さん大変お疲れだと思いますが、もう少しお付き合いをよろしくお願いいたします。

それでは、これより一般質問を行います。

1、人口「4万人割れ」人口減対策について。

(1) 国・県では、異次元の少子化対策として、様々な施策を打ち出してきておりますが、当市も人口4万人割れ、令和5年2月1日現在3万9,697人、高齢化率41%、出生数170人割っております。合計特殊出生率1.33と都市機能維持の危機的な状況であり、米田市長としてどう捉えていらっしゃるか。また、市として具体的にどう取り組んでいくのか。

(2) 人口問題と少子化。医療、職場、住居、「医・職・住」の充実など、総合的計画の必要性について。

① 糸魚川ライフサイクル支援・循環型継続支援を打ち出していらっしゃるが、子育てする魚「イトヨ」をシンボルとした「イトヨプラン」を打ち出し、人口問題を総合的に捉え、出会いから結婚、出産、子育て、進学、地元定着、老後までを一連のプランニングとして、安心して産み育てる。さらに「終の棲家」までを策定し、一目で分かるパンフレットを作成して全国発信し、全戸配布すべきと思いますが、どうお考えでしょうか。

② 「おめでた祝い金（出産準備金）」や「出産祝い金」、「マイホーム補助金」、「地元就職祝い金」、「移住・転入助成制度」など魅力ある制度を拡充・導入するなどして、「糸魚川版異次元の子育て支援」をすべきと思いますが、どう考えるか。

③ 家庭内暴力や母子家庭助成、児童虐待、いじめ問題等についてワンストップ窓口体制を構築し、弁護士や警察などとも連携した対応強化策を構築するべきと考えますが、いかがでしょうか。

2、子育て支援複合施設の需要と、この施設が優先的に必要なのか。

建設費約15億円、年間維持管理費約5,000万円、「DBO一括建設・運営方式」など、詳細が明らかになるにつれ、批判が高まる子育て支援複合施設構想。

なぜ必要なのか。なぜこの場所なのか。一体誰のための施設なのか。何人が使うのか。費用対効果など、詳細と必要性について伺います。

計画を中止する。または、「日本初・子育て支援センター付き市営住宅」など、計画変更すべきと考えますが、その余地はあるのでしょうか。

3、権現荘を今後どのように運用していくのか。また過去の経営責任はどうするのか。

(1) 指定管理者制度に移行するまで、米田市長は権現荘の管理者であり、また、一時期、株式会社能生町観光物産センターの社長でありました。赤字経営、支配人等の不正行為、4億円のリニューアル工事、株式会社能生町観光物産センターへの特命随意契約決定等の一連の責任をどう考えるのか。

(2) 指定管理者制度を継続できない理由は何なのか。

(3) 今後どのように運用していくのか。

(4) 年間2,000万円の黒字宣言でありましたが、ここまでの収支はどうなっているのか。

(5) 第三セクター株式会社能生町観光物産センターの損益をどう考えていらっしゃるのか。また、その責任をどう取るのか。

以上で、1回目の質問を終了します。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

古畑議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、出生数や生産年齢人口の減少は、経済規模の縮小や社会の活力低下につながるものと捉えております。第3次総合計画を着実に実行することにより、合計特殊出生率の改善や若者の転出超過数の減少等の取組を進め、年齢構成のバランスが取れた人口構造への転換を図ってまいります。

2点目の1つ目につきましては、第3次総合計画を着実に進めるとともに、ライフサイクル支援策の見える化を行ってまいります。

2つ目につきましては、事業効果や継続性等を考慮しながら、行政サービスが展開できるよう国や県の動向を注視し、検討してまいります。

3つ目につきましては、ケースにより専門性が必要なことから、関係部署や関係機関が連携し、対応しております。

なお、あらゆる子育て相談の窓口として相談員、直通電話を開設して対応しております。

2番目につきましては、駅北大火からの復興に向けたにぎわいのあるまちづくりを背景に、都市機能の強化と充実を図りたいと考えております。

市営住宅の建設も方法の一つと認識しておりますが、市としては、これまで多くの皆様方と積み上げてきた議論を尊重し、頂いた意見を踏まえ、少子化に対応した未来を担う子供たちの成長と、子育て世代が安心して出産・育児ができる環境づくりが必要と捉え、駅北子育て支援複合施設の整備を計画いたしているところであります。

3番目の1点目につきましては、過去の経営責任については、その都度、議会等に報告をさせて

いただいてまいりました。

2点目と3点目につきましては、昨年実施いたしました次期指定管理者の募集条件では、応募がなかったことから、民間譲渡の可能性を検討しておりますが、当面は、日帰り温泉のみの営業を続けてまいりたいと考えております。

4点目につきましては、権現荘における指定管理者の収支は、平成29年度以降、赤字が続いており、令和2年以降は、コロナ禍により収入が大きく減少いたしております。

5点目につきましては、権現荘の経営が、指定管理者の収支全体に影響を及ぼしておりますことから、株式会社能生町観光物産センターにおいて、対応を検討いたしております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

それでは、これより2回目の質問に入らせていただきます。

さて、ここで来年度の重点施策に人口減対策、少子化対策、重点項目に入っていないですか。これですね、この4項目には入ってません。これは一体どういうことなんでしょうか。4万人を切ったという認識が浅いということなんでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

では、私のほうからお答えさせていただきたいと思っております。

新年度の重要施策のポイントであります。人口減少対策というところが、名称がないというお尋ねだと思います。今、第3次総合計画では、人口減少対策と住み続けられるまちづくりというのは、最重要の課題といたしてございまして、その対策といたしまして最も大事なところは、教育、経済、それから健康と医療、その分野を特化する中でこの対策に当たっていききたいというところがありますので、そのまず細分化という形で、お示しをいたしているというものであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

あのさあ、認識というものがおかしいんじゃないですか。国だって異次元の少子化対策、県だって今、少子化対策を前面に、一番最初に出してきてますよね。国や県より10年も15年も高齢化率が上がって、少子化率が下がってる糸魚川市が、何で重点項目に上げてこないんですか。これは逆に、少子化・人口減対策緊急宣言をするべきときじゃあないですか、糸魚川市は。他市が、人口減対策をやったら、糸魚川に来てくれるであろう人まで来なくなるんですよ、いかがお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

議員の言われるところは、人口減少対策というのは本当に第一義だというふうに思っております。その中でも、予算のポイントの中でも、冒頭に、人口減少対策という言葉掲げておりますし、住み続けたいなるまちづくり、そこをまず第一番目の前段のところできっちりうたっておりますので、文字の、もうちょっと強調したほうがいいんじゃないかと言われる部分も十分認識はあると考えております。

いずれにいたしましても、重点課題であるというところでは意識づけをしておりますので、それに沿った各論の取組を進めていきたいというものであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

総合計画にあるように、これは予定どおりに人口減少になっているということなんでしょうかね。

市長、そもそも平成のこの大合併、1市2町は、人口減対策、行財政の対策にあったんじゃないでしょうか。その中であなたは、人口減を、人口対策を何とかしてくれるということで初代市長になったんじゃないですか。これを今訴えないでどうするんですか。この中に書いてあるって、いかにも役人みたいな答弁で、市民が納得しますか。市長、お答えください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

令和5年度の予算編成に当たって、皆様方にもご説明しておるように、やはり糸魚川市は人口減少対策と住み続けられるまちづくりというものを第一に上げておるわけでございまして、その施策として、地域経済の循環、そしてまた医療、健康福祉の充実、そして教育の推進、そして、この社会の動きに対応していく、その4点を上げさせていただいております。でありますから、やはり人口減少というのは、もう合併以来といいましょうか、合併以前からもそうなんです、これ永遠の課題のつもりで我々は取り組んでおるのが、やはり人口減少でございまして。その辺は、もう本当に、特に全体がもう人口減少対策と捉えておるわけでございまして。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

実際のこの人口減は、総合計画の中にうたわれているような人口の減少と、対してどうなんですか。緩やかなんですか、それともスパイラルなんですか、データ的にお答えください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

議員ご指摘の総合計画における人口ビジョンといった推計に基づいているところでございますと、そちらの数字よりも、我々のほうで推計した数字よりも早く人口減少が進んでいるといった状況ではあります。特に出生数ですとか、あと移住のほうは、逆に少しいい率でございますか、先般のコロナ禍ですとか、東京一極集中の是正といった流れの中で、若干の転入数のほうが増えて、転出が減るといった傾向はございますけれども、全体の人口減少としては、残念ながら進んでいると。

ただ、全国的にも減少の傾向というのはございますので、その中での一つの動きかなという分析もできるかとは思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

やっぱり怖いのはね、全国的だということなんです。糸魚川だけじゃないから、糸魚川はもっと頑張らないと糸魚川の人口減少は止まらないってことだ。人が転入だとかという分野を呼び込めない、人を呼んでこれない。それで結局、東京一極集中みたいのが再び始まっているね。東京が一番出生率が低いでしょう。このまんまじゃあ危ないと。もう糸魚川もいよいよ覚悟を決めなさいよ、ぐらい緊急度があると。

市長、上越市では、人口減少の責任を取って、正副市長が月額10%の減収をやっておりますよ。そのぐらい責任取ってらっしゃる。糸魚川市長は、どうお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

そういうお考えもあられると思いますし、我々といしましては、やはり施策の中で、この繁栄を何とか生かしていきたい。そういった方向に持っていきたいということで、いろんな事業をやっておるわけございまして、それは全国同じ、自治体、同じような事柄について、やはり求めていくわけございまして、飛び抜けるというのはなかなか難しいことかもしれませんが、今いろんなことが全て私は、そういった人口減につながるものとして行ってるわけございまして、それを今、単年度で判断できて、単年度でそういった形で回収できるものならそういたしますが、それはやはりそう簡単に私は判断できるものはないと思っておりますので、やはり与えられた任期の中で精いっぱい対応していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

多分これは単年度ではなくて、減り続けている限りずっと収入は10%カットしていかなきゃ駄目でしょう。でも、それは覚悟であり、それがポーズであり、そしてアクション。やっぱりそれを受けた市民の皆さんは、市長、副市長もやっぱり真剣に考えてる。俺たちも何とかせんならん。息子と呼ばんならん。娘を呼び返さなきゃ駄目だ。じゃあ俺も地元へ戻ろうかなとか、そういう機運になっていくんじゃないでしょうか。

さあそこで、やっぱり人口が減り続けることで、どのような弊害が起こるのか。私関係ないというふうの下向いてる課長の皆さん、それぞれお聞かせをいただきたい。財政的には減ったらどうなるのか、福祉的には支えていけるのか、商業的にこの活性化をどう考えればいいのか、農業・漁業をやっぱりこれで人を集めないと糸魚川のよさが出ないんだよ、農林水産業。

それから次、教育。減ったから合併したらいいってもんじゃないでしょう。地域活性化には、それぞれ教育の場合や子供の声が聞こえなきゃ駄目だ。それについてどうお考えなのか。

また、社会教育もそう、文化的な考え方もそうですよ。人が減っていったらどんどん祭りがなくなるから、イベントも全部できなくなっていく。やっぱり文化を守るには、人間が必要なんです。それはやっぱりどうお考えなのか。

などなどね、どのような弊害が起こるのか、各担当課ごとにお答えください。考えのない人はいけど。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

お答えいたします。

人口が減ったら財政的にはということで、端的に申し上げますと、やはり税収が減るとか、そういったところに影響があるかと思えます。

ただ、そういったことに対応するためにいろんな施策等を打つべきであると、議員おっしゃるような形のことは私も当然だと思っております。

あと交付税のほうも、人口を基礎としたものもございますので、そういったところにも影響が出るかと思えますが、そちらのほうは国の施策として動く場合もあるかと思えますので、今ここで、じゃあ具体的にということのお話はちょっとできかねるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

商工観光課のほうの担当としましては、やはり労働力不足によります市内経済の活力の減少。また、それに伴いまして、やはり事業所、会社等の消滅等も考えられるんじゃないかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯貝福祉事務所長。〔福祉事務所長 磯貝恭子君登壇〕

○福祉事務所長（磯貝恭子君）

お答えします。

福祉事務所のほうですが、人口が減少すれば相対的に高齢化率が上がるというところで、高齢化率が上がれば、それを支える介護の人材が不足するということを課題と考えております。ですので、高齢の方にもなるべく元気で、いつまでも地域の一員として活動していただけるような、そのような事業を進めてまいりたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

農業の分野から、お答えさせていただきます。

やはり一次産業で担い手の数が減少しますと、やはり食料生産能力の低下、それから農業、農地、それから森林等の持つ多面的機能の低下といったところで、地域の環境の悪化といったところも考えられるかと思えます。

また、担い手が少なくなることによって、例えば農業であれば用水とか農道の生産基盤施設の低下、機能の低下といったところも考えられるかと思えます。

農業の分野では、今、基盤整備等をする中で、担い手が少なくなっても持続可能な農業をしていくというところで、そういった事業にも取り組んでいるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

靄本教育長。〔教育長 靄本修一君登壇〕

○教育長（靄本修一君）

教育の分野から、お話させていただきます。

子供というのは、そのものが夢や希望、未来につながります。子供たちの数が少なくなると、地域コミュニティの元気度、これが随分ダウンするんじゃないかなということを思います。

それから、子供たちのいろんな諸活動が縮小されていくという部分のところについては、やっぱり子供たち同士の集団づくりの中が、なかなか円滑にいかないというような部分の諸問題も出てくるというふうに思っています。文化的な活動、スポーツ的な活動、いろんな部分の活動があるんですけども、そんなものがちょっとずつ規模が縮小していくというふうなこと。そのことによって、子供たちの夢や希望みたいなものが、だんだん縮小してくるというふうな悪循環になるんじゃないかなと思っています。

それから、子供たちが発達段階でキャリア教育というのをずっと進めていきますけれども、その辺の部分の中で、やっぱり自分の将来を展望したときに、何ていうかな、夢がだんだん、だんだんしぼんでくるんじゃないかなというふうなことも、私は将来的にも考えたときに危惧する大事な分野でございます。

そんな意味合いで、子供の数、子供ってのは、即未来、希望、その塊が、そのエネルギーが、子供自身持ってますので、数が少なくなるというのは本当に寂しいし、この先の地域づくりにとっても大変大きな課題であるというふうに深刻に考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋産業部長。〔産業部長 大嶋利幸君登壇〕

○産業部長（大嶋利幸君）

建設課長の立場で、答弁させていただきます。

建設課で担当しております市道につきましては、市内全域に張り巡っておるわけでございまして、それらの維持管理につきましても、人口が減ることによりまして、なかなか橋りょう等も含めまして管理が困難になってくるということもございまして。

それとまた連動しまして、冬期間の除雪作業につきましても、広いエリアをカバーしなければいけないわけでありまして、それらの費用につきましても、かなりの負担が生じてくる可能性がございまして。

あと、平常時ではなくて、いざ災害が起きたときの対応につきましても、これらに地元の皆さんと連動して対応する必要があるわけなんですけども、それらの対応につきましても、ある程度影響が出てくるものではないかというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えをいたします。

まず、一担当課長の立場といたしましては、人口が減ることで公共交通そのものが、自立性というのが著しく低下していく。そのために市はコストを注入し続けていくというような、悪い循環というところが、行政全体を縮こませるといった要因になるかと思っております。

もう一点、先ほどの建設課長の分としての部長の答弁ですが、インフラの維持管理というのは、たとえ人が少なくなって、除雪も含めて、少なくなっても、そこに人が住んで暮らしている限りは、行政の責任としてやらなければいけないことで、それがポツンポツンと虫食いのといいますか薄まっていくことで、言い方短絡的ですけど、効率性というのが著しく低下してまいります。そういう面を含めまして、私どもの都市計画の分野で、なるだけこのエリアに来ていただけないでしようかという、計画でいいますと立地適正化計画をいろんな施策のほうに水平展開をして、今進めている状況でございまして。

以上です。

○議長（松尾徹郎君）

よろしいですか、ほか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

樋口ガス水道局長。〔ガス水道局長 樋口昭人君登壇〕

○ガス水道局長（樋口昭人君）

ガス、水道、下水道事業の分野でお答えをいたします。

当市のガス、水道、下水道事業の事業化の大部分が一般家庭でございまして、人口減少が即料金収入につながってまいります。

また、私どもの管理する施設は、今ほど都市政策課長が申しあげましたように、たとえ人口減少が進んだとしても、簡単には施設を縮小、あるいは廃止することができない、あるいはできにくい施設でございまして。そのため、人口が減っても施設にかかる費用というのは、それほど変わらないわけですので、当然1人当たりの費用が増加して、料金にも影響してくることになります。

それとあともう一点は、人口減少は人材にも影響しておりまして、私どもの組織だけではなく、地元の関係企業の技術者も減少しておりまして、今後の施設整備、維持管理、そういった面で影響が及んでいくものと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

人口減少、それから高齢化が進むことによって、医療需要というのが変化してきております。そうなりますと、糸魚川の基幹病院である糸魚川総合病院のある診療科目が、不採算部門に陥ってしまうというようなことで、心配されるのが診療科目が維持できるのか、あるいは病床が維持できるのか、そういう心配はあります。今、少し表に出てきておるのが、産婦人科の産科の部分で、今この3月、4月から糸魚川では出産できなくなるという状況になっておりますが、これが一つの大きな現象でないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

総務課の立場で、お答えをさせていただきますが、やはり人口が減ってまいりますと、市のバランスからいっても職員も減らさなければいけない状況になってまいりますので、それだけ優秀な職員の採用も控えなければいけなくなります。

それから、職員が減ってきますが、仕事そのものが減るわけではございませんので、その分、職員への負担が大きくなりますし、その部分で時間を取られることによって、新たな施策なりの考える時間が取られてしまう。そういう意味では、市の新しい施策等も考えづらくなっていくという悪い面が出てくるかというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪又環境生活課長。〔環境生活課長 猪又悦朗君登壇〕

○環境生活課長（猪又悦朗君）

当課所管でありますけども、やはり空き家の増、特に今、管理不全の空き家が増えるということでございます。こういったものが増えることによりまして、周辺的生活環境の悪化が予想されることでありまして、これの対策が必要というふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山本文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 山本喜八郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（山本喜八郎君）

お答えいたします。

文化振興課の立場で、お答えさせていただきたいと思っております。

糸魚川にはすばらしい文化財等たくさんありますが、やはり人口減少が進むにつれて、そういったものを次の世代に継承していくということも、だんだん困難になってくるのが予想されます。そのようなことから、やはり市民の皆様から糸魚川のよさを知っていただき、いつまでも住んでいただいて、そういったものをみんなで次世代に継承していくと。そういう取組をしていかなければならないというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

穂苺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苺 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苺 真君）

先ほどいただきました社会教育という立場から、お話をさせていただきます。

人口が減るということで、当然、社会教育自体の基盤、基のところが減ってくるということがございます。特に今、生涯学習のほうでは取り組んでおるのは、地域と一体となった子育てですとか、地域と一体となった地域づくりですとかということに取り組んでおりますので、やはりそのマンパワーが減るということで、やはりその地域の力が弱くなっていくということが懸念されております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小野こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 小野 聡君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（小野 聡君）

お答えいたします。

学校関係となりますが、教育長言われたように、地域と共に歩む学校を今推進しておりますので、そういった地域の元気もなくなりますし、子供たちの夢やそういった実現に向けたいろんな道が少し細まるのが考えられますし、施設関係では、学校の数等が少し減ってくる可能性がございます。そういった部分も、こちらもそうですけども地域としっかり協議しながら進めていく可能性がございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

こども課から、お答えさせていただきます。

人口減少と少子化ということで、2つの局面があるかと思っております。

まず、少子化という部分では、例えば同じ子供を抱える子育て世代がいなくなることによって、やはり子育ての孤立化であったりとか不安感、また負担感といったものが増えてくるのではないかとこのように懸念されるところでございます。

また、少子化の影響によりまして、保育園、幼稚園、また、小中学校の適正配置についても考えなければいけない課題であるというふうに捉えております。

また、もう一つの人口減少対策につきましては、全体の人口、例えば生産年齢人口が減るような中で、保育を支える保育人材等の不足といったものも、福祉医療同様に懸念されるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

それでは、市民の生命・財産を守る消防本部からということで、お答えさせていただきます。

まず、消防署につきましては、先ほど健康増進課長からもありましたとおり、産科の医師の不足と申しますか、それに伴って消防本部では市外搬送とかが増えることによりまして、弊害が出てくるものと捉えております。

また、地域密着の消防団につきましては、もう古畑議員ご承知のとおり、減少が続いているということで、地域防災を守る、こういった観点では課題となっております。

また、自主防災組織も高齢化によりまして、担い手が減少してくるといったところで、なかなか難しい問題かなというふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

企画定住課の業務の中では、地域づくりを行っております。人口減少と高齢化が進むことによって、山間地を中心として、特に人材不足になる。そういうことで、集落維持困難になっていくといったことが挙げられるかと思っております。

全体的に見て、持続可能な糸魚川市ということに向けては、やはり人口減少の速度を少しでも緩やかにしていくといったこと、それから年齢構成のバランスが取れた人口構造への転換を図るといったことが必要かというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

ありがとうございました。全課長からね、人口対策に対してのコメントをやっぱりいただきました。

全課長に聞くというこの手法はね、本当はやってはいけないというか、紳士協定の中で時間が長くなると駄目なんですけど、皆さんの意見を聞きたかった、各担当課の。私は関係ないなんて下向くんではなくて。この人口減少については、市全体の問題であり、その影響を受けない課はないってことなんだよ。

それからもう一つ、課長たるものは、政治家です。議員や市民に言われて動く、そういう公僕とかしもべとか言われますけど、自分の判断で政策をやるもう政治家なんです。もう市会議員さんよりもずっと権力、それから財力を持っている政治家。自分たちの中でしっかりと構想を持ってないと駄目なんです。市長に言われたからとか、部長がいるからとかじゃなくて、課長が前面に出てこないといい市にならないし、いい政策も生まれません。

そこで、コメントをいただいたわけなんですけどね。糸魚川ライフサイクル支援、循環型継続支援を打ち出しておりますが、体系的に整理をしたことによって何が見えてきました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

体系的に整理をさせていただいたことでやはり見えてきたのは、本当に庁内全体で人口減少対策に取り組んでいるといったことをお示しできているのではないかというのが一つあると思っております。特に、あそこに書かせて計上させていただいた事業数でいまましても38の事業がございまして、庁内連携して取り組む内容で、金額的にも合算すると大まか9億7,000万ぐらいになってくるといったこともございます。こういった資料を皆様、もう少し詳しく分かるような形にして、ホームページ等でも検索をしていただけるようなところをしていきたいと、資料を作っていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

これやっぱね、こういう体系的に制御して、このたすきをどこへつないでいくんだらうかってやったこと、何回も言いますが、子供の数を増やしても教育費を削減しても、その子供たちが外に行って帰ってこないって全然意味ないんですね。税金を、みんなで社会で育てた意味がないではないか。やっぱ帰ってきていただいて何ぼなんです。それでようやく人口が増えたと言うんです。

今、生産年齢が減少してるでしょ。この生産年齢は、高齢者も支えて、さらに自分の子供たちも支えていけなくちゃいけない。自分の親、長男と長女が結婚したら、親はいきなり4人になっちゃうんだよ。もうそれもやっぱ介護していけなくちゃいけない。どれだけ、行事だ祭りだ、学校なんかPTAだっつって、駆り出されるわけだろう。これやっぱ疲弊します。やっぱその辺をどう介助して、楽にしてやるかを考えてあげないと駄目だ。

それから、老後に不安を持ってしまったら、そこで安心して暮らせないでしょう。だから、その

ための施策もちゃんとつくってやる。だから、揺り籠から墓場までって昔よく言ってたよね。やっぱりそのとおりだと思う。そのときから基本的な考え方というのは、何ていうのかな、変わらないと。これをさらに発展させて、いわゆる子育てする魚、イトヨをシンボルとした、ずっと言ってきたけど、やっぱり糸魚川独自の名称が必要なんだよ。糸魚川プランにして、今いう、揺り籠から墓場までのプランニングを一目で見れるようにしてやる。一目っちゃ無理だろうけど、冊子にしてあげる。

今日は忘れてきてしまいましたが、前回視察に行ったときの福井県の取組で、やっぱり見やすく明るいパンフレットありましたよね。やっぱりああいうものを糸魚川でも作るべきだと。それはやっぱりもうすぐ作っていただきたいと思うんですが。今言ったような意見たくさん課長さんお持ちでしょう。それらをまとめて、庁内でしっかりと論議して、1課だけで作るんじゃない。広報部だけで作るんじゃない。みんな課長さんで、やっぱり真剣に話し合った中をまとめたものを糸魚川版の、何だろう、子育て支援として、バンと出してほしいと思う。これいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

お答えします。

今回、予算参考資料では、こういった形でライフサイクルという形で、初めてまとめさせていただきました。やはりこういった見える化というのは大事だと思いますし、後は、これをどうやって広げていくかという部分も大事だと思いますので、その見せ方。それから、あと庁内での各課のやっぱり私たちが見えない部分、1つの課だけでやるんじゃなくて、見えない部分をしっかり聞き取る中で、こういったものを、これで満足するんじゃなくて、まださらに出てくるはずですよ。そういったものを見つけながら、これからも進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

やっぱり岡山県奈義町、これ奇跡の町って言われますよね。これ何でそうやって言われてるんでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

今、議員の言われた市町村については、すいません、ちょっと私も認識がなかったんですけども、多分、議員の今のご発言からいくと、多分人口が増加しているんだろうなというふうな印象を受け止めました。いろんな地域の特徴を捕まえたものが功を奏してるのかなというふうに察しました。

〔「これ、誰も知らない、議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

これやっぱり子育て支援が、国でやるって言ってからワイドショーですとかニュースだとかでいろいろ取り上げられました。岡山県奈義町、これね、なんと出生率が2.9%です。だから、奇跡の町と言われた。

これ長々と説明すると時間がなくなりますけど、ここに上げてある施策と、糸魚川のこの施策と比べてみても、そんなに大差ないんです。若者向け住宅だとか青年向け集合住宅とかだけないんです。やればいいんですね。だけどそれが抜けてるぐらいなもので、大概やってるんです。糸魚川のほうが先じゃねえかと思うようなこともたくさんある。

じゃあ何が違うのかなんですけど、町長さんがこう言ってるんですね。

町は、合計特殊出生率2.6、人口6,000人維持を目標に掲げている。笠木元町長は、町が生き残るには出生率は上げ、子供を増やすしかない。今後も子育て支援を充実させ、継続して目標を達成できるようにしていきたいと意気込んでいる。

これ市長、分かりますか。トップの熱ですよ。じゃあ市長、これについてどう思いますか。やはり必要なのはトップとしての熱ですよ、熱量、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私もかなりの熱もあると思っておりますが、今議員ご指摘のように、よそから見て判断される部分もあるかもしれません。そういう中においては劣る部分もあるかもしれませんが、自分自身は精いっぱいいろんな課題に向けて、やはり何度も申し上げておるように、今、議員もご指摘をいただいておりますが、全ての事業施策に、私は関連するものと思っておりますので、どれ一つ取り残さないようにやっていかなくちゃいけない。バランスよくやっていくことが大切かと思っておりますので、しっかり取り組んでいきたいと思っておりますし、また熱が上がっていくように頑張りたいと思っております。

○議長（松尾徹郎君）

質問の途中ですが、ここで暫時休憩いたします。再開を1時といたします。

〈午後0時01分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

それでは、引き続き行わせていただきたいと思います。

はえば立て、立てば歩めの親心とよく言われますが、次から次へと施策を展開し、駅伝のたすきのようにつないでいく。人口対策というものは、そういうもんだと思うんです。これについてどう思いますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

お答えします。

まず、1つの政策だけではできない。それは断言できると思います。

それともう一つ大事なものは、時代の流れによって変わってくるってことだと思います。そういうところを含めると、議員が言うようなたすきという表現をされましたけども、やっぱり角度を変えたり、やり方を変えたりとか、目線を変えたり、そういった時代に合ったものでやっていかなきゃいけないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

時代に合わせて計画を変えていく。この総合計画や人口問題、そもそも合併時で5万人を基準にしてるんだよね。今は4万人を割れた。やっぱり計画の抜本的な見直しがやっぱり必要だということです。

結局、物語やストーリー性というものが、その中には絶対に必要です。その中には、情熱、そして選ぶ方の人生プラン、糸魚川で一生を終えるというシナリオがやっぱり必要になってくるんです。それをやっぱり行政側として提供しなくてはならない。

これで1つのエピソードあります。

私の元に結婚を決めた若者が、報告にきました。これよかったね、いい話だよねと思ったら、糸魚川を出て、入善町に行くって言うんです。恋人が入善の人で、そっちのほうから糸魚川へ通うと言って。これ何ですか、糸魚川に呼んで、入善へ通わせればいいじゃないかと言ったんだけど、入善町は引っ越しの費用、マンションの頭金、それから結婚・出産のお祝い金も出る。そうした将来設計ができるから入善町へ行くんだと。これ耳痛くないですか。

糸魚川には、そういうシナリオや人生プランを決定できるだけの、要するにさっきたすきをつないでいくような計画というのは、ちゃんとできてると思いますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

今、政策は、今年のライフサイクルプランみたいな形でつなぎ合わせましたが、それでは十分であるというふうには思っておりません。いろいろ先ほど申し上げましたように、時代の流れによって、そのニーズによっても異なってくると思います。そういうものはしっかり取り入れる中で、もうちょっと深めていく必要があるというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

これやっぱりこうしたプランニングを見るにつれて、糸魚川というのは定住や移住に対する支援が甘いと思う。糸魚川版異次元の子育て支援プラン、これの策定をやはりすべきだと思うんですね。その中においては、やはり今言ったような移住・定住、こっちへ引っ張り込めるだけのプランニングというのが、施策というのが少ないと思うんですね。これらについて重点的に施策を展開すべきだと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

今、国のほうでも議員が今言われた子育て支援というのは、今年ちょっと目玉に、国策として入ってきてると思います。国策で始めれば、国の交付金や補助金という形になってまいります。その部分だけでは、頼っていただけでは十分じゃないと思います。糸魚川ならではのものもあると思いますので、そういったものをつなぎ合わせる中で、しっかり対応していく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

国がやる、県がやる、国民であるならば、県民であるならば、別に糸魚川じゃなくたって、その制度は受けれるんです。糸魚川じゃなければ受けれない、そういう支援策をやはり打ち出していくべきだと思います。大体そもそも、結婚適齢期の男女が少ない。

そこで、その推移はどうなってますか。結婚率と独身率、その実数は一体どうなってるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お答えいたします。

結婚率と独身率ということなので、未婚者数という数字を2020年の国勢調査の数字で申し上げますと、20歳から54歳の人口が1万3,334人。そのうち未婚者数が4,955人というこ

とで、その率といたしますと未婚率という形で、今、市で独自で計算したものになりますが37.2%といった数字になっております。この数字でいきますと、前回、2015年の国勢調査の数字よりも約1.3ポイント増えているといった状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

今の結婚率、独身率、未婚率って言ったよね。じゃあ結婚率はどうなってる。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

すいません、お待たせしました。

令和4年、すいません、令和3年の数字になるんですけども12月末で、婚姻率でいきますと2.4と。これは人口1,000人に対する結婚している方の数を割り返したものといた形になります。

○17番（古畑浩一君）

休憩取ってもいいから、ちゃんと。

○議長（松尾徹郎君）

暫時休憩いたします。

〈午後1時07分 休憩〉

〈午後1時08分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

すいません、先ほど申し上げたのは、人口1,000人当たりということで、全人口に対する婚姻率ということで申し上げました。未婚率が37.2%ということですので、20歳から54歳といったところで結婚されてない方は、おおむね6割、60%の方が、まだ結婚されてないといった数字になる。失礼しました。結婚している方ということになります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

結婚率が60%ってことだね。これやっぱり問題だと思うんですね。これをやっぱりどうにかしてあげないといけない。もう男女の出会いの場もそうだし、やっぱり結婚を推進する考え方というのは、やっぱり持ってかなくちゃ駄目だ。

もうさらに糸魚川としては、医、職、住、要するに医療、職場、住居ですね。これの充実が大事だと思うんですが、総合医療、今問題になってますが、総合医療というものは堅持できるのか。さらには、糸魚川で子供が産めるようになるのか。現時点では分娩できませんね。将来的に見て、どうなんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

総合医療ということで、糸魚川総合病院において地域の医療を核として担っております。行政としましては、やはりこの糸魚川総合病院を核とした地域医療体制については、本当に堅持をしていきたいというふうに考えております。

それから、あと分娩の関係ですが、これも一般質問等でご説明させていただいております。医師を確保するべく動いておりますが、実際には、そう簡単ではありません。

ただ、やはり市民の皆さんから、安心して、安全に糸魚川でお住みいただくとなると、それは一つの要素として必要だというふうに認識しておりますので、引き続き医師の確保については、厳しいですが、努力させていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

厳しいですが、やっぱりこの総合医療というものは、分娩だけじゃないですからね。超高齢化ですから、糸魚川市は。いつ脳梗塞か心臓発作か分かんない。いつ倒れるか分からない。1分1秒を争う。そのときに総合医療病院がないってことになる、問題ですよ。もう県は分かりますよ。地図の上だけ見て、上越市に全部拠点を移して、そこで総合医療をやればいいって言うが、それは机上の空論と言うんですよ。

そもそもだよ。何で新潟県糸魚川市がだよ、富山県を頼りに医師を全部出してもらって、新潟県から医師が来ないんですか。どういうことなんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

新潟県については、全国でも医師偏在指数といいまして、必要な医師は全国で一番少なく、不足しておる県であります。新潟大学からは、毎年、お医者さん出るわけですが、人口は200万人以上おります。

ところが、富山県は、同じ大学一つでも、人口は100万人ということで、富山大学のほうが、やはり富山県のほうが少し余裕があるのかなというふうに考えております。

またもう一つが、これまでの糸魚川市と富山大学とのいい関係性というのがあります。これについては、今後も壊すことなく連携を取りながら、いい関係を維持しながら、医師の派遣については、富山大学を中心にお願いをしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

富山県から医師派遣をお願いすると、新潟県から来ない仕組みになってるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

決してそうではないと思っておりますが、今ほど言いましたように、新潟県が、全国でも一番必要な医師の数が足りません。それで、いろいろ派遣していただいておりますが、現実的には、なかなかこっちのほうまで回していただけないということでもあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

そんなふざけた話ないでしょう。新潟県が幾ら広くたって、20市しかないんですよ。20分の1で割って、もらったっていいじゃないですか、人口割でもいい。過去にも聞いたけど、1人ってことはないでしょう。

これやっぱり納得できないんで、これしっかりと、我々は新潟県であって、富山県ではないってことは、はっきりと県庁に言ってほしいと思う。市長どうですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員もご承知かと思いますが、研修医制度の変更によって、今までの流れがぐっと変わってまいりました。その中で、今まで大学病院が、ある程度、各関係するところの医師の派遣については適切に、地域医療、僻地医療、そういった対応でやってまいったわけでありまして。それが変わったことによって何が変わったかということ、やはり医師個々のお考えなり、その思いによって、好きに研修できるような制度になった部分があります。

そういう状況の中で、非常に今、課長が申し上げたとおり、新潟県は医師が少ない県の中で、その中で、我々も当然、新潟県だから新潟県から、新潟大学から派遣してもらおうのが筋だろうという

ことで、今までもやってまいりました。

しかし、現在の、以前からの流れの中においては、糸魚川は富山県から、富山大学からおいでいただいている部分があるので、今のルートを、医師が少ないので、それでつないでくれと。困ったときは新潟からも対応するというような流れで進めてこられました。

しかし、なかなかそう簡単にはいかなくて、非常に厳しい状況があったわけでありまして、そういう中で、昨今の地域医療構想、国を挙げての医療構想、また、県がそういった形で取り組む中において、県の力がやはり非常に重要になってまいっております。

ですから、今ちょうど過渡期だと思っております、働き方改革だとかいろんな面で。そうなってくると、やはり我々は新潟県の医療構想の中での上越エリアの医療をどう地域医療を捉えていくかというところが明確になってきます。そして、我々が、今しっかりお願いしなくちゃいけないのは、今ほど言いましたように、ただ単に上越エリア、中越エリア、下越エリアだけで医師を派遣するのではなくて、地域の地形を考えてほしい。特にこの糸魚川は、非常に周辺に大きい都市がない中において、非常に離れている地域なんで、やはり地域の中で必要な医療は、必要な地域医療は必要な地域に置くべきだという中で、今、論議をしてもらおうという方向に動いております。

ですから、このままずっと富山大学から派遣してもらおうのいいのか、また、そういう中において、上越圏域の地域医療構想の中でしっかりとした連携を取っていけるのか、その辺をしっかりと見ていかななくちゃいけないだろうと思っております。

そういう中で、この産科、特に産科医の医師が減っておる状況が見受けられて、少し問題になっておるわけでありましたが、それに対しても今、県と連携を取りながら対応させていただいております。ここで産んでいけるという環境をつくっていかないかんし、もし駄目であってもやはり出産される方々に迷惑かからないように、また、ここで産んでという形といったシステムはしっかり、備えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

新潟県の、特に医師不足はよく分かりました。

じゃあさ、新潟県の医師不足を、糸魚川が富山県から医師を派遣して補ってることになりますよ。富山県が嫌だって言ったら新潟県が、本来は、それを全部補償する、確保する。その義務は、新潟県にあるのではないですか。我々は、もう長い間、何十年もかけて医師不足を、新潟県の医師不足を補うために富山県にお願いして、富山県の大学から医師を派遣してもらってきてるんですよ。それが非常に厳しくなってきたら、いよいよ新潟県が面倒見るもんじゃないですか。子供を産むだけ産んで知らないというのと一緒じゃないですか。新潟県だって、ちょっとおかしいんじゃないですか。それはもう声を大にして、文句言うべきですよ。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

そういう状況が生まれ始めたのは、平成10年ぐらいから生じ始めておりました。それはまだ、そのときはまだ情報なんです、そのときの状況はどうかというと、県単位は、一切あんまり関わっておりません。大学の病院が、しっかりとそういった連携なりネットワークをつくってやってまいりました。そういう中で、この医師不足というのは地方に見受けられるようになってきて、国なり県の介入が入ってくる状況があるものですから、今までと変わって、県の権限が入ってくる。そうすると県境の我々のところは非常に、じゃあ富山エリアじゃないかという形で今問題になってきとるわけでありまして。以前は、大学病院の圏域は、糸魚川は富山薬科大学のエリアと。ですから、富山大学という形になっておりますが、そんな歴史の中で動いてる状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

この医師不足は、今始まったわけではなくて、それこそ米田市長とあっちこっちお願いをしに回った。時の保健所の山崎医監が、やっぱり糸魚川は医療過疎ですねと。その医療過疎を解消のために頑張ってくれた。これ全部覚えてます。

でもいつまでたっても解消されないじゃないですか。これは、いつまでもはいはいって言うこと聞いてるんじゃないかと、新潟県に糸魚川どうしてくれるんだって、子供も産めないんだぞと。じいちゃん、ばあちゃん倒れたらどうすんだよって、やはり文句言うべきですよ。何で新潟県の代わりに、糸魚川市長が頭下げなきゃ駄目なんですか。一緒になって声を出して文句言うべきですよ。そう思いませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

古畑議員から言われると、あんまりしっかり言ってないんじゃないかと捉えるかもしれませんが、我々といたしましてもしっかり申し上げておりますし、常々、もう特に知事との懇談会、そして今、厚生連病院を公的病院としている地域6市として、その都度、今申し上げております。そういう中で、今、途中経過だと思っておりますし、決して黙っておるわけでもございません。その辺をしっかりと地域医療構想の中で言っていかなきゃいけない。そして厚生連病院の、やはりまだしっかりと県の中で位置づけられとるわけじゃございませんので、その辺もしっかり我々は厚生連病院の立場の中で、そっちへまたいろいろ意見を申し上げておる状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

理解を示すのは大事なことです。けど声を出さなきゃ何も変わりません。私たちは、もっと怒って

もいいべきだと思います。やはり生活不安は、その解消は、糸魚川なら糸魚川市、新潟県なら新潟県知事が考えていかなくちやいけないこと。たしか市長、あなた県議会議員の後援会長ですよ。県議会議員にもしっかりその辺は伝えなさいって言ってくださいよ。

やっぱりこの危急存亡のときに、しっかりとくさびを打っておかないと、糸魚川は捨てられますよ。何県だか分かんない糸魚川市だと言われてしまう。やはり新潟県糸魚川市というものを確固たるアイデンティティを持って進むべきだと私は思いますよ。

さて、時間も迫ってきましたので、今度、子育て複合施設へ行きます。

建設費15億円、年間維持費約5,000万円。DBO一括計算、さっき田原議員から散々やりましたけど、詳細が細かくなってくるほど、発表されるほど問題が大きくなってきますよね。

いま一度聞きますけど、なぜこの施設が必要なのか、なぜこの場所なのか、一体誰のための施設なのか。それから誰が使うのか、費用対効果はどうなのか、何回聞いても納得できません。説明するほうも飽きたと思いますけど、いま一度聞きます。明快な答えをお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

明快というか、少し途中の部分をはしょって乱暴な言い方になるかもしれませんが、まず、大火が発生しました。その後に復興計画の中でにぎわいをつくらなければいけない。人が住み続けられるまちをつくらなければいけないということで、復興計画をつくりました。その後に、じゃあにぎわいということは何かということをも市民の皆様からいっぱい考えていただきました。そこは、あそこに人が集まることが、その根源だというふうにも考えました。その集まっていたくために、いろいろ子育てで困っている人というような声も聞いている。あと地元の人たちも、いろんな世代の人たちが使えるという当初のことも声として承っている。ですので、そういうのを併せた施設をあの場所に造るとというのが、糸魚川市の今までの考え方でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

あのね、何回聞いてもそこだけは理解できる。何で子育て施設なのって話になってくる。商店街も周りの市民たちも、えって言って何で怒ってるか分かりますか。大火からの復興、にぎわいづくりと言って、ここまでやってきたんでしょ。にぎわいは生まれてますか。じゃあ何で閉店するお店屋さんとか、店を閉める大型だとかチェーン店だとか、みんななくなっていくんですか、閉店されていくんですか。どこににぎわいがあるんですか。教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えをします。

ここも、あえて少し客観的に、復興事業を取り組んで本町通りの辺りがきれいになったねという声は頂いています。にぎやかになったねという声は、やはり届いていないです。私も正直にそう思います。

ただ、この前の一般質問でもお答えしましたが、確実にそこに行き来する人は、年間3万人のレベルで増えています。そういう点を増やしていくというのが、復興まちづくり戦略なんですけど、やっぱそれだけだとやっぱ人を集める部分だけだと駄目で、空き家・空き店舗とかを使いやすくなるとか、逆に、不動産業として提供しやすくなるような施策等、次は、空き家・空き店舗を使いやすくするよう施策、あと、自分でそこに何かチャレンジして、事業を起こしてみたいっていう人たちは足元を支える。そういうやっぱ施策を束ねていかないと、皆さんが実感できるようなにぎわいというものが、あそこに出てこないのではないかなということで、その辺は、まだ市役所としては不足している部分だというふうな認識はございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

にぎわい、そもそもの捉え方が違うんです。にぎわいってのは、往来数なんだよ。日々生活してどれだけ使ってるか。

先ほどJR大糸線の話も出ましたけどね。イベントだとか何とかって人集めても、JR西日本はカウントしませんよね。それと同じなんだ。幾らイベントやって、何とかマルシェとかやったって、ほかから食いもん屋さん連れてきて、そこで稼がして帰らせてどうするんですか。目の前のお客さんが通っていくけど自分の店には来ない商店街の苦しみってわかりますか。どんどん減っていく、どんどん高齢化になっていく地元区の寂しさって知ってますか。

大町区の高齢化は51%以上ですよ。中央区も一緒です。町なかのドーナツ化現象なんてもんじやないんですよ。これらをやっぱりしっかり考えて、にぎわいとは何ぞや。人が住む場所をつくってあげることだ。そこに人が集まってくる日々だよ、日々集まってくる場所をにぎわいって言うんだよ。

それからね、財政課長に聞くけど、15億円の建設費、これはもちろんそうだけど、年間維持費5,000万円、これ糸魚川市、真水でしょ。どっからも補助金も何にも来ないでしょう。ここにこんなにいっぱい使ってしまったって、ほかに回せる予算ってのは生じるんですか。

さっき皆さんの課長さんたちに、それぞれ人口減に対する問題点を言ってもらった。もっとしゃべりたいと思いますよ。もっと深刻な話がたくさんあるんだ。私が言ってんのは、こんな一点豪華主義やっていいんですかってことです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

お答えさせていただきます。

まず、全体的なことをお話させていただきますと、財政運営につきましては、総合計画策定時に令和10年度までの財政計画ということで立てております。

ただ、ちょっと長いスパンになりますので、毎年毎年の財源状況というのは、その年で変わってまいりますので、それ以降のものにつきましては全体の中で、その年、調整するという形で今進めております。事業の効果や必要性等を考えながら予算対応しているところでございますが、未来を担う子供たちの先行投資といたしまして、必要な予算ということでは確保するという形で考えております。

ただ、限られた財源でございます。何に優先的に充てていくかというのは、ニーズとか効果を見ながら対応してまいりますし、また行政改革などで事業の見直し、効率化のほうも引き続き取り組んで進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

あのね、税収ってのは限られてる。財政課長は、あなた山の神であって財布握ってるんだよ。言われるままに金出すんじゃないくて、やはり時の財政課長というのは、大蔵大臣ですよ。市長が幾ら言われたって、市長、このお金を使ってしまったら、この後の糸魚川市は成り立たんてなるんですよ。

教育委員会にちょっと聞きますけどね。やっぱり要望の強い、そんなだったらゼロ歳児からの補助を多くしてもらって、ゼロ歳児保育ね。5歳・6歳までの保育料の軽減だとかはやっぱりやってほしい。これ幾らかかるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

ゼロ歳から5歳まで、全年齢で無償化をした場合の費用でございますが、これは令和3年度の決算ベースになりますけども、約9,000万円となっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

9,000万だよ、5,000万あればだ。9,000万のうちの半額は補助できる。給食費無償化にするとすると幾らですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

まず、先ほどの保育料ということでお答えしましたが、9,000万円の中には保育園、幼稚園等に係る給食費も含まれてるということでお願いいたします。

また、今ほど給食費を無償化した場合ということで、こちらの小学校、中学校合計ということになります。こちらの今度は令和4年の本年度予算ベースになります。約1億8,000万円となっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

先ほどの9,000万払えばですよ、その補助を出せば、その給食費まで無償化できる。

ただ、それは小学生、中学生まで伸ばしていくと、それだけの金がかかる。これできますか。できない理由も聞かせてください。給食費は。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

お答えさせていただきます。

できるか、できないかということに対しては、どちらともちょっと申し上げることは、今の段階では差し控えさせていただきます。

まず、先ほど申し上げましたように、全体の中での調整というのが、まず一義的には出てまいりますので、先ほど来、古畑議員もおっしゃいますように財源は限られているだろうというお話をいただいております。その限られた財源を何に使うかということで考えていかなければいけないことでもありますので、先ほど来、課長職が申し上げたように、少子化対策というのはそれぞれの思いがございますので、そういったものを考えながら対応することになっていくと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

そのとおりです。だから何回も言うけど、一点豪華主義、木を見て森を見ずじゃ駄目なんだって。全体に必要なものをまず全部上げて、給食の無償化、それからゼロ歳児保育の補助だとか、事子育てに関するもの、それを上げて、できるものとできないもの、お金で何とかなるものをやっぱり優先的に考えていくべきだ。

それから、子育て支援設備付き市営住宅というのは考えて、前にも提案しましたが、今回、広報に書いて出しましたけど、これつきましてのお考えを聞かせてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えをいたします。

以前から議員がそのようなことをおっしゃっておったことは聞いていましたが、先月8日の全員協議会のときに、ちゃんとといいますか、しっかり聞き得ました。そういうペーパーも見させていただきました。情熱というような先ほどの言葉もありましたが、ちょっとあえて議員のそういう主張を冷静に考えてみました。

都市計画、立地適正化計画の観点からは、都市機能と居住誘導機能が合わさっていて、その部分では本当にど真ん中の部分だと思います。あと復興計画の住み続けられるにぎわいというところにも、そこには通じる、資するものだと思います。入居いただければ、金かければかけるほど、いっぱい入っていただけますけど、ある程度の定住の人口が増える。人口密度がキープできるというメリットもあります。民間とタイアップした場合の縮減、もしくは家賃としての収入という面もございます。

もう一方で、やはり市長の答弁にも何回もございますが、これまで皆さんから本当にお時間、お声を頂いた、そういう議論の積み重ねというものが議員の提案では、やはり白紙に近くまで、私は戻ってしまうと考えます。

もう一点、子育て機能と図書機能を大幅に縮小するということが、まずその前提になります。そういうプラスの面、都市計画的には非常に魅力的なのですが、やはり私どもとしては、各地域に懇談会に回り始めた令和3年くらいに、あと2年くらい前に聞かしていただきたい意見ですが、今は、そこまで戻せる時間は残っていないのではないかというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

だからさ、いい意見だけど言うのが遅かったねっていう感じだよね。いやそれなら全部、地元区からの要望も少子化問題も定住化問題も全部クリアできるし、その運営費用たれで、毎年5,000万以上のものが、ほかの予算にも使えていって、申し分のない計画じゃない。

これ全部最初に聞いたでしょ、考える余地があるのかって。今のは、もう計画はもう全部使ってるんで、今頃言われたってもう遅いです。考える余地がないって言ってませんか。おかしいですよ、今までの答弁。市民の皆さんや議会の意見、これから聞いて一つにしていきたいって言ったんじゃないですか、どうですか。もう決まってるんじゃないですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

この施設につきましては、民間の参入もやはり視野に入れさせていただきました。そういう中で、同じようなご意見もいただいた中で検討もさせていただきましたが、やはりその敷地の面積だとか、

いろいろやはり弊害があった部分があります。そういう中で、絞り込みの中で現在のやはり施設になったわけでありますので、全然検討していないわけではございませんでした。そういう検討もさせていただいた中で、現在の施設に至っておるわけでありますので、ご了解いただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

その美辞麗句、市民の意見を聞いた、大火のためと。これやっぱきれいごとで、じゃあその裏を取ってきました。その4年間、私議員じゃなかったんでね。その話合いの中で、やっぱりそういうのでいって話だったのって言ったら、いいアイデアがなくて、じゃあ子育て支援センターみたいなもので、まあいいかって話も確かにした。でもそのときに15億円の建設費だとか、5,000万円の維持費なんて話は一つもなかった。

この間の説明会でも、住民説明会でも、総額だとか年間維持費何にも言ってませんよね。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えをいたします。

素案説明会として住民の皆様、能生、青海、糸魚川の地域で説明をさせていただきました。素案の説明を超えない範囲ということで、まだ議会にお示ししていないそういう金額ということは説明しなかったのですが、じゃあパブリックコメントを先にしたじゃねえかということになっちゃうんですけど、前回の住民の説明会のときには、議会にまだご説明をしていないことを先に説明するべきではないというふうに考えて、隠したわけではなくて、そういう説明会に臨んだものでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

パブリックコメントは、私にはできませんけどね。私のフェイスブックだとかいろんなネットを通じて、電話だとか、市民の声は届いてますよ。こんなの造ってどうすんの、誰が利用できるのと。私の娘は1人で子供を産んだけど何の支援ももらえないのに、こっちに使っていいのか。とっても切実な話が、ここに来てます。中には怒りもある方もいらっしゃるでしょう。これも市民の声なんです。市民の声を盾に取ったり、大火からの復興を美談にして、何が大切なのか十分に考えてほしい。

もうやっぱりね、木を見て森を見ず。対極に立って、糸魚川市全体を見て、計画を立てるべきな

んです。限りある税収的にも一点豪華主義ではなくて費用対効果を考え、きめ細やかに、そして大胆に、戦略的な政策を打つことが大事であります。

それから、聞くまねは一切やめること。聞かせてくれ聞かしてくれ、言ってくれ言ってくれって言ったって、駄目だできませんで話ばかりじゃないですか。そっちのアイデアはいいねとかと言っても、もう決まったんで遅いですね。もっと早く言ってくればいいのにと、そんな答弁ないでしょう。

誰が決めたんですか。私の耳には、市の職員といえどもたくさん今回の計画は見直すべきだって話が来てますよ。市長、あなたが決定すればいい。

それから、何回も言いますけど、事業費だって国から半分出るというその事業費だって、ほかのことを造ったとしたって期限的なものがあるだけの話。国は、少子化対策をやるって言うてるんだから、それが少子化に結びつくもんなら違う事業費がつく。

それから、過疎債。過疎債というのは7割も返ってくるから、有利な過疎債です。だけど、ここに何億円も使ってしまえば、ほかに回せる過疎債がないんだよ。15億は、15億なんだ。何にも得にならない、糸魚川市のために。

○議長（松尾徹郎君）

時間が参りました。

○17番（古畑浩一君）

それを考えて、やっぱり本当に必要なものを精査してやるべきだ。市民の意見も議員の意見も、もっともっと聞くべきです、真摯に。

終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、古畑議員の質問が終わりました。

これをもちまして、一般質問を終結いたします。

以上で、本日の全日程が終了いたしました。

本日は、これにて散会といたします。

大変ご苦勞さまでした。

〈午後1時43分 散会〉

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員